

中学校 英語

英語科の「読むこと」領域における  
物語文を読み取る力を身に付けるための指導法の研究  
－4W1Hシートの活用を通して－

むつ市立大平中学校 教諭 中村 久子

要 旨

本研究は、物語文を読み取る力を「登場人物が、いつ、どこで、何を、どうした（する、している）か」の4W1Hに着目して要約することと捉え、4W1Hシートの活用が物語文を読み取る力を身に付けるために効果的であるかを明らかにしたものである。4W1Hを「登場人物が」「どうした（する、している）か」「何を」「どこで」「いつ」の順にした4W1Hシートを完成させ、4W1Hシートを活用して場面ごとに各一文の英語で要約させた。その結果、場面ごとに物語文の4W1Hを整理することができ、要約文を正しく書く生徒の割合が増えた。

キーワード：中学校 英語 読むこと 物語文 4W1Hシートの活用 要約

## I 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）、言語活動「ウ 読むこと」領域に、「（ウ）物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」という指導事項が示されている。中学校学習指導要領解説外国語編では、この指導事項について次のように述べている。「物語や説明文などは文章としてある程度の長さを持ち、まとまった内容を伝えようとするものである。この指導事項においては、一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、書き手の伝えようとすることを正確に読み取ることを示している」。

自身のこれまでの「読むこと」における指導は、教科書にある新出単語や教科書本文の意味確認と発音練習、音読練習に偏り、本文の内容を読み取る力を身に付けるための指導となっていなかった。そのため、生徒は教科書本文の内容を読み取る方法を知らず、苦手意識をもつようになった。物語文を正確に読み取る力を身に付けるためには、登場人物、主人公、話の展開など、大まかな流れをつかみながら読み取ることが大切だと考える。

そこで、「登場人物が、いつ、どこで、何を、どうした（する、している）か」の4W1Hに着目しながら物語文を読み取ることができるよう、4W1Hシートを完成させる。さらに、4W1Hシートを活用して物語文を場面ごとに各一文の英語で要約できるようにする。この4W1Hシートを活用することで、物語文を読み取る力を身に付けることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

## II 研究目標

英語科の「読むこと」領域において、物語文の「登場人物が、いつ、どこで、何を、どうした（する、している）か」の4W1Hシートを完成させ、要約文を考える際に4W1Hシートを活用することにより、物語文を読み取る力が身に付くことを実践を通して明らかにする。

## III 研究仮説

英語科の「読むこと」領域において、次の①、②を行うことにより、物語文を読み取る力が身に付くであろう。

①4W1Hシートに、物語文について、場面ごとに、「登場人物が」「どうした（する、している）か」

「何を」「どこで」「いつ」の順に英語で書く。

② 4W1Hシートを活用して、物語文を場面ごとに各一文の英語で要約する。

#### IV 研究の実際とその考察

##### 1 研究における基本的な考え方

###### (1) 物語文について

今回は教科書のリーディング用教材として編集されたイソップ物語を扱う。イソップ物語は「登場人物が、いつ、どこで、何を、どうした（する、している）か」の4W1Hが示されている文であり、概要を読み取りやすいと考えた。また、イソップ物語が伝えようとしていることを読み取ることにより、生徒にこれからの生活に役立ててほしいと考えた。

###### (2) 物語文を読み取る力について

中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）では、言語活動「ウ 読むこと」領域の指導事項である「（ウ）物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」について、「物語では、どんな登場人物がいるのか、主人公は誰か、話がどのように展開していくのかなど、大まかな流れをつかみながら読み取ったり」とある。また、谷口（1992）は「我々は読んでいるものが良く理解でき、その内容を良く覚えているときは、たやすく要約することができるが、そうでないときは良い要約ができない。読解において良く理解できたかどうかを自分で判定するには要約してみることは一つの良い方法である」と述べている。このことから、本研究における「物語文を読み取る力」を「登場人物が、いつ、どこで、何を、どうした（する、している）か」に着目し、物語文を場面ごとに各一文の英語で要約することと捉える。

##### 2 研究内容

###### (1) 4W1Hシートについて

谷口（1992）は、「要約をすることの一番の利点は、読む場合に重要な情報に焦点をあてて読むことである。ただ読む場合よりは、つかもうとする大事な点を常に探しながら読むために読みが深くなる」と述べている。このことから、物語文の「登場人物が、いつ、どこで、何を、どうした（する、している）か」の4W1Hに着目して読むことが必要となる。4W1Hを「登場人物が」「どうした（する、している）か」「何を」「どこで」「いつ」の順にしたのは、要約文を書くときに語順を意識できるようにするためである。図1は、本研究2時間目の4W1Hシートである。

The Lion and the Mouse					
Class ____ No. ____ Name _____					
[場面1]	登場人物が	どうした(する、している)か	何を	どこで	いつ
絵					
[場面2]	登場人物が	どうした(する、している)か	何を	どこで	いつ
絵					
[場面3]	登場人物が	どうした(する、している)か	何を	どこで	いつ
絵					
[場面4]	登場人物が	どうした(する、している)か	何を	どこで	いつ
絵					

図1 物語文 The Lion and the Mouseの4W1Hシート

###### (2) 物語文の場面分けについて

事前調査では、物語文の場面分けをせずに、場面の絵だけを生徒に提示した。絵については、「登場人物が」「どうした（する、している）か」をイメージできるもので、話の展開が分かる最低限の枚数とした。また、絵の枚数を場面の数と等しくし、要約文を書く生徒の負担を軽減できるようにした。しかし、事前調査で、生徒は、要約する活動として教師が設定した時間の半分を物語文の場面分けに費やした。そのため、本研究では、絵と英文をあらかじめ場面分けして与える。

### 3 検証方法

#### (1) 4W1Hシートの記述内容について

4W1Hシートに、物語文について場面ごとに「登場人物が」「どうした(する, している)か」「何を」「どこで」「いつ」を表す語句を正しく書いた生徒の割合、間違っ

表1 物語文 The Lion and Mouse 4W1Hシート記入例

登場人物が	どうした(する, している)か	何を	どこで	いつ
a mouse	climbed		a lion's back	One day
The lion	caught	the mouse		

割合、無記入だった生徒の割合を調べ、物語文を4W1Hに着目して読むことができたかを検証する。表1は、4W1Hシートの記入例である。

#### (2) 要約文について

物語文の大まかな流れをつかむことが大切であるという考えに基づいて「登場人物が」「どうした(する, している)か」に重きを置き、要約文を次のような採点基準で点数化する。

[採点基準] 全場面合わせて7点

- ①「登場人物が」「どうした(する, している)か」を両方書いていれば4点、両方書いていなければ0点、全場面で書いていれば6点とする。
- ②「登場人物が」「どうした(する, している)か」を両方書いている場合は、「何を」「どこで」「いつ」のどれかを書いていれば1点追加とする。
- ③本研究で扱う物語文にある、I, it, his, he, you, me, we, they, them, its などの代名詞が、要約文の中で何を指しているのか分からない場合、1点減点とする。

「登場人物が」「どうした(する, している)か」に重きを置くため、4~7点を取った生徒の割合を、4W1Hシートを用いた実験群と用いなかった統制群で比較し、4W1Hシートを活用することが物語文を読み取る力を身に付けるために有効であるかを検証する。表2は、4W1Hシートを活用した要約文の例である。

表2 物語文 The lion and Mouse 4W1Hシートを活用した要約文の例

登場人物が	どうした(する, している)か	何を	どこで	いつ
a mouse	climbed		a lion's back	One day
The lion	caught	the mouse		
↓	↓	↓		↓
The lion	caught	the mouse		one day

### 4 検証結果と考察

#### (1) 4W1Hシートの記述内容について

表3は、4W1Hシートに正しく語句を書いた生徒の割合、間違っ

表3 4W1Hシート項目別正答・誤答・無答人数の割合(%)

		登場人物が	どうした	何を	どこで	いつ
The Wind and the Sun	正答	90.4	71.4	71.4	/	80.9
	誤答	4.8	19.0	14.3	/	4.8
	無答	4.8	9.6	14.3	/	14.3
The Lion and the Mouse	正答	95.2	71.4	71.4	66.7	95.2
	誤答	4.8	28.6	28.6	0.0	0.0
	無答	0.0	0.0	0.0	33.3	4.8
A Man and His Son	正答	95.2	52.3	42.9	61.9	19.0
	誤答	4.8	42.9	33.3	4.8	4.8
	無答	0.0	4.8	23.8	33.3	76.2

表4は、「どうした(する, している)か」「何を」の誤答例をまとめたものである。これを見ると、「どうした(する, している)か」に「登場人物が」を表す語句 [1] と「どこで」を表す語句 [3] が書かれている。また、「何を」に「どうした(する, している)か」を表す語句 [1] と「どこで」を表す語句 [2] が書かれている。これは、他の誤答例を見ても分かるように、語句の意味を理解していないからではないかと考えられる。

表4 誤答例

どうした	[1] wind, sun, mouse, hunters, the king, One of them, Both of
	[2] true, poor, old, little, a true, true friend
	[3] back, on its back, market, on the donkey, in the water
	[4] then, first, with a net, your
何を	[1] shown down, tried, climbed, caught, kept, sell, walking, are carrying
	[2] market, the jungle
	[3] first

(2) 要約文について

要約文を点数化して、4～7点を取った生徒の割合を、4W1Hシートを用いた実験群と用いなかった統制群で比較した(図2)。これを見ると、物語文「The Wind and the Sun」では、統制群が高かったが、他の二つの物語文は、どちらも実験群が高かった。このことから、4W1Hシートを活用することが物語文を読み取る力を身に付けるために有効であると考えられる。

次の表5～8は、本研究2時間目に扱った物語文「The Lion and the Mouse」で生徒の書いた要約文である。

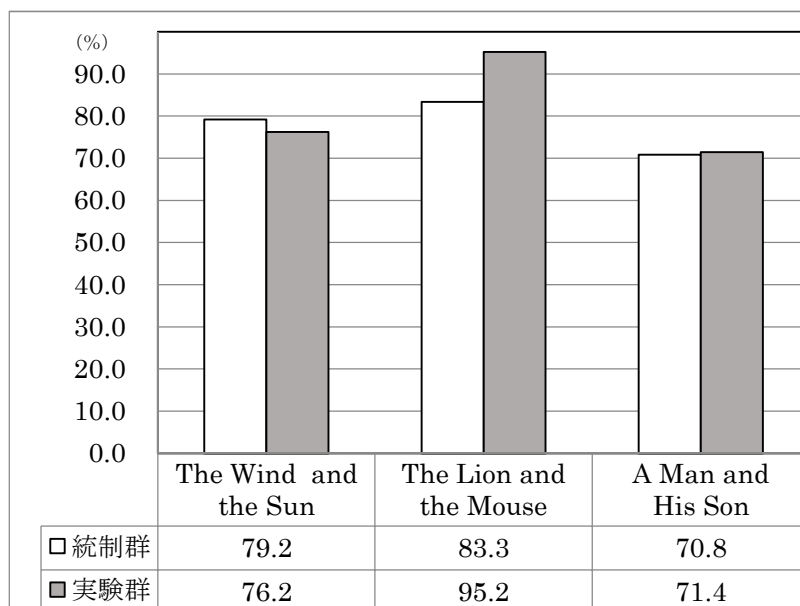


図2 要約文 4～7点を取った生徒の割合

表5 要約文の点数が4点だった生徒の要約文

統制群	実験群
<ul style="list-style-type: none"> <li>• You look delicious.</li> <li>• Some hunters caught the lion with a net.</li> <li>• The mouse climbed up the net and chewed.</li> <li>• You are small, but you are a true friend.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• A mouse climbed lion's back one day.</li> <li>• The lion caught with a net jungle next day.</li> <li>• The mouse chewed on the net.</li> <li>• You are true friend.</li> </ul>

統制群の「You look delicious.」は「ネズミがライオンの背中に登った」「ライオンがネズミをつかまえた」という内容でないため、採点対象から除外した。また、実験群の「The lion caught with a net jungle next day.」は「ライオンがジャングルでつかまえた」という意味ではなく、「ライオンがジャングルでつかまえられた」という意味であるため、採点対象から除外した。統制群、実験群とも「登場人物が」「どうした(する, している)か」を両方書いて、「何を」「どこで」「いつ」のどれかを書いていれば5点とした。しかし、代名詞の「you」が何を指しているのか分からない要約文があるため1点減点とした。

表6 要約文の点数が5点だった生徒の要約文

統制群	実験群
<ul style="list-style-type: none"> <li>• The lion caught the mouse.</li> <li>• Some hunters caught the lion with a net.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• One day, the lion eat the mouse.</li> <li>• The next day, some hunters caught the lion.</li> <li>• The mouse chewed on the net.</li> <li>• The mouse kept promise.</li> </ul>

実験群の「One day, the lion eat the mouse.」はこの物語文で「ライオンはネズミを食べていない」という意味であるため、採点対象から除外した。実験群、統制群とも「登場人物が」「どうした(する, している)か」を両方書いていて、「何を」「どこで」「いつ」のどれかを書いていれば5点とした。

表7 要約文の点数が6点だった生徒の要約文

統制群	実験群
<ul style="list-style-type: none"> <li>• One day the lion caught the mouse.</li> <li>• The next day, some hunters caught the lion with a net.</li> <li>• The mouse climbed up the net, chewed on the net and the lion got away.</li> <li>• You are a true friend.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• One day, the lion caught the mouse.</li> <li>• Some hunters caught the lion.</li> <li>• The mouse climbed up the net.</li> <li>• You kept your promise.</li> </ul>

統制群、実験群とも「登場人物が」「どうした(する, している)か」を両方、全場面で書いていて、「何を」「どこで」「いつ」のどれかを書いていれば7点とした。しかし、代名詞「you」が何を指しているのか分からない要約文があるため1点減点とした。

表8 要約文の点数が7点だった生徒の要約文

統制群	実験群
<ul style="list-style-type: none"> <li>• A mouse climbed up on to a lion's back, the lion caught the mouse.</li> <li>• Some hunters caught the lion with a net.</li> <li>• The mouse climbed up the net and chewed on the net.</li> <li>• lion said, "You are small, but you are a true friend."</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The lion caught the mouse one day.</li> <li>• The next day some hunters caught the lion.</li> <li>• The mouse climbed the net and chewed on the net.</li> <li>• The lion said, "You are small, but you are a true friend."</li> </ul>

統制群、実験群とも「登場人物が」「どうした(する, している)か」を両方、全場面で書いていて、「何を」「どこで」「いつ」のどれかを書いていれば7点とした。代名詞「you」は、「The lion said, "You are small, but you are a true friend.」」の中で使われていて、何を指しているのか分かるため、減点しなかった。

表5～表8を通して、統制群の要約文は、物語文から一文の英語をそのまま抜き出して書かれたものが多い。これに対して、実験群の要約文は、物語文から一文の英語をそのまま抜き出して書かれたものが少なく、必要な語句を選んで書かれたものが多い。このことから、4W1Hシートを用いることで、物語文を場面ごとに各一文の英語で要約するために必要な語句と必要でない語句を整理し、「登場人物が」「どうした(する, している)か」「何を」「どこで」「いつ」の語順を意識して要約文を書くことができたのではないかと考えられる。

## V 研究のまとめ

要約文を点数化した結果、実験群は、4～7点を取った生徒の割合が、全ての物語文で統制群より高かった。これは、4W1Hシートを用いることで、語順を意識して場面ごとに整理できたためであると考えられる。このことから、4W1Hシートを完成させ、要約文を考える際に4W1Hシートを活用することが、物語文を読み取る力を身に付けるために有効であると考えられる。

## VI 本研究における課題

4W1Hシートは物語文を読み取る力を身に付けるために効果的であるという考えに基づいて、研究を進めた。そのため、教師は4W1Hシートの記述内容を全体で確認する場を設定しなかった。その結果、生徒は自分が書いた4W1Hシートの語句が正しいのか分からないまま、要約した。生徒が4W1Hシートを活用して書いた自分の要約文が正しいのか、間違っているのか、間違っている場合、どこが間違っているのかを分析させる活動を行う必要がある。さらに、物語文によっては、4W1Hシートの「登場人物が」「どうした(する, している)か」「何を」「どこで」「いつ」を表す語句が全て書かれているとは限らず、4W1Hシートの内容を工夫する必要がある。4W1Hシートの内容を工夫し、生徒に要約文を分析させる活動を取り入れることで、物語文を読み取る力が身に付くのではないかと考えられる。

### <引用文献・URL>

- 1 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 外国語編(平成20年9月)』, p. 16
- 2 谷口賢一郎 1992 『英語のニューリーディング』, pp. 218-219, 大修館書店

### <参考文献・URL>

- 青木昭六 1990 『英語授業の組み立て—よりわかりやすく, より興味深く—』 開隆堂
- 伊勢寛臣 2007 「中学校第1学年英語科における読み取る力を高めるための研究—「Gアップシート」の活用をとおして—」『平成18年度(第50回)岩手県教育研究発表会発表資料』  
[http://www.iwate-ed.jp/tantou/kyouka/seika/h-up/h18\\_09a3.pdf](http://www.iwate-ed.jp/tantou/kyouka/seika/h-up/h18_09a3.pdf) (2014. 8. 20)
- 金谷憲 1995 『英語教育研究リサーチ・デザイン・シリーズ③ 英語リーディング論 読解力・読解指導を科学する』 河源社
- 白須康子 2004 「中学校の英語教育における絵本・児童文学の活用」  
<http://human.kanagawa-u.ac.jp/gakkai/publ> (2014. 6. 26)
- 渡辺時夫 1996 『新しい読みの指導 目的をもったリーディング』 三省堂